

核兵器禁止条約を採択

賛成 国連加盟国の3分の2

人類史上初めて核兵器を禁止し、「核兵器を使うぞ」と脅すこと(核抑止力)も否定する条約が7月7日、七夕の日に国連で採択されました(写真)。賛成122カ国、反対1カ国、棄権1カ国で、国連加盟198カ国の3分の2の賛同を得て成立しました。これに参加しなかった核保有国にも条約参加の道筋を示しています。



戦争被爆国日本政府は核保有国に追隨してこの国連会議に参加せず、ヒバクシャや世界の国々から批判されました。

しかし、日本原水爆被害者団体協議会や日本兵器禁止条約の成立に尽力しました。日本共産党の志位和夫委員長が3月と7月の2回参加し、各国代表や市民団体と懇談、交流するとともに国連会議で演説もしました。これには笠井亮衆院議員、井上さとし参院議員も参加しました。

明るい小矢部

No.196
2017年7,8月号

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

日本共産党発行
赤旗
日刊 3497円
日曜版 823円

核兵器禁止条約への賛同を

6月議会 砂田市議の一般質問

砂田市議は6月議会で桜井市長に「平和首長会議(会長・広島市長)に参加する小矢部市として、核兵器禁止条約への賛同」を求めました。桜井市長が「核保有国が参加しないのでは実効性に心配」などと、日本政府の言い訳を述べ「推移を見守る」と答えました。砂田市議は次のように反論し、再答弁を求めました。

砂田市議 かつてオバマ前大統領のプラハ演説に、桜井市長は感動したと発言し、その後の平和行政にもつなげていった。国連では核廃絶への第一歩として、国連加盟国の大多数が参加して地雷や生物化学兵器と同じように核兵器禁止条約を結ぼうとしている。ヒバクシャも訴えている。この禁止条約を土台にして、次の廃絶すもつとしているのだ。これまでものように核兵器を持つ国が賛同するまで待っていたら、70年経つても実現できなかったではないか。北朝鮮が核実験をやるまでになった。だからこそ核兵器禁止条約の締結が重要だ。

「核兵器禁止条約締結へ取り組んでいる平和首長会議と同じ思いだ」

桜井市長

桜井市長 平和首長会議は核兵器禁止条約の締結に向けた取り組みを進めている。平和首長会議に加盟している小矢部市としても、昨日、広島市長が中満・国連軍縮上級代表に「被爆者の思いをしっかりと受け止めて取り組んで頂きたい」と申し入れたように、私も思いは同じだ。平和首長

会議の一員として取り組んでいきたい。

「『原爆と人間』パネル展示など平和教育を充実」

桜井市長

桜井市長 今後も毎年8月に開催されている広島での平和祈念式典への中学生の派遣事業、日本非核自治体宣言協議会の活動を通じて国に対して核兵器廃絶の要望を行う。原爆と人間、パネル展示の実施、広島市の平和祈念式典に参加した中学生の報告発表等を通じて、子どもたちの平和教育の充実をしっかりととはかっていきたい。

砂田市議 平和首長会議として核兵器禁止条約の制定を求めていることを、市民にアピールす

砂田市議 議員在職30年の表彰受ける

6月議会初日の9日、砂田喜昭市議は議員在職30年以上の表彰を受けました。

砂田市議の談話

1986年以来31年間、日本共産党議員として公約実現に努力してきました。長く頑張れたのは、ご支援を頂いた方々をはじめ、市

国民平和大行進

市民から温かい響き、募金

富山県朝日町から広島まで歩き続ける85歳の山口逸郎氏を先頭に、原水爆禁止国民平和大行進が6月16・17日、小矢部市内を進行し、核兵器廃絶をアピールしました。沿道から手を振る人々の歓迎を受け、署名104筆、募金1万8千472円が寄せられました。



が寄せられました。

「核兵器廃絶を望む声」続々

市役所では、桜井市長のメッセージを添えた署名、中西正史議長の名前および一般職員121名分の署名が激励金とともに進行団に渡されました。

国民平和大行進は17日、天田峠で石川県引き継がれました。

ひろば

安倍政権の法秩序を無視した国政の私物化に、我慢のならない怒りのストレスを感じていた私は、共産党富山県委員会が都議選の選挙ボランティアを募集していることを知り、意を決して応募しました。▼安倍憎しみの思いで、ビラ配布や政策宣伝のメガホン隊活動に力が入り、運動靴の底が剥がれるペーシングもありましたが、富山でイライラしながら日々を過ごすよりも、心のストレスを解消するには、うつつでいた▼応援に入った北区は共産党都議団副団長と自民党の幹事長との熾烈な3位争いをしており、結果は前回トップ当選の自民党幹事長を落とした勝利となりました。共産党現職候補は、自由党や新社会党からも応援をもらい、良識ある都民から、党派を超えた支持を受けて、前回票を5千数百票上積みしての勝利でした▼マスコミが「自民党と小池新党の闘い」と報じ、小池新党への追い風が吹く中で、真の争点は自民党と共産党の闘いであることを都民に示しての闘いでした▼共産党19議席への躍進は、多くの選挙区で当落線上にあった自民党を落とした勝利であり、安倍政権への強烈な批判という、わかりやすいものとなりました▼引き続き、安倍政権を解散・総選挙まで追い込み、まず自公とその補完勢力を含めた議席を少数に追い落とす事が切望されます。そして、立憲主義に基づき、理性ある政権を取り戻し、安心して暮らせる世の中を子や孫に引き継ぐ事が、今を生きる大人の責務であり、まだまだその道の一里塚に過ぎないと、益々意気盛んに燃えている熱きシンジイです。